

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 広島市立伴南小学校

プログラム	N05 地域カルタを作ろう
单元名 (全70時間)	えがおのひみつたんけんたい(70時間)
学習のねらい	○身近な人々と関わることで、適切な接し方や伝え方が分かり、地域に愛着をもって生活しようとする。
学習内容	1 町探検の計画をたてる。 2 町探検にでかけ、働く人にインタビューをしたり写真をとったりして仕事を調べる。 3 自分の気になる店や施設で仕事体験をする。 4 探検や体験活動でお世話になった人を笑顔にする方法を考えて実行する。 5 町探検のことを「地域かるた」にして遊ぶ。
参考資料 準備品 実施場所等	探検ボード 伴南小学校区

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点 児童に、学区の店について興味を持たせるため、町探検を2回実施した。1回目の町探検では、建物に興味をもたせ、どんな建物があるかを調べさせた。2回目の町探検では、それぞれの店の仕事について興味をもたせるようにし、児童が調べたい、もっと見たいという意欲を大事に計画した。 また、「お店の仕事を体験したい。」という児童の発言から、仕事の体験を仕組んだ
(2) 実施にあたり苦労した点 校外学習として、9つのお店に協力していただいた。日程やお店ごとに児童にどのような体験をさせてもらえるかという調整に手間がかかった。一度に出かけるため、保護者の方に付き添いをお願いし、引率の人数を確保した。かるた作りでは、お店のすてきなところを言葉にすることが、2年生の発達段階で難しい児童もいた。
(3) 児童の反応 店に何度も行ったことで、店の人の名前を覚え、「〇〇さんは、こんなことを工夫していた。」という風に発表ができるようになった。お客さんや町のために、熱心に仕事をしている人がたくさんいることを理解でき、その人にぜひお礼がしたいという思いをもち、次の学習につなげることができた。地域かるたを作る学習では、店の人のがんばっているところや素敵なお店が伝わる場面を選ぼうと取り組む姿が見られた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

担当教員は、児童が町のお店や働く人に関心をもつようになったことを実感している。この学習後、校外学習に行くバスの車内から町の風景を見ていた児童から、「あれは〇〇のお店だ。」「〇〇さんのお店だ。」などの発言が多くあったり、広島市の中心に行ったときも、伴南の町にある店の系列店を進んで見つけたり姿が見られた。

また、これまでは、お店の方へのお礼は、教師主導で行っていたが、今年度は、児童の思いを大切にし、実現できるよう支援したことで、児童が主体的にお礼の品を考え作ることができた。そのことが、プレゼントを渡す時の児童の言葉にも表れており、児童の思いや考えをひき出しながら学習を進めることが大切であることを実感していた。

(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]

児童の思いを引き出しながら学習を進めることができたことは大きな成果である。その点では、お店探検を初めの段階でさらにもう1回多くすることで、①児童の確かめたいことを主体的に情報収集でき、②お店の人の仕事への思いも詳しく聞くことができると考える。本校では、第5学年でキャリア教育として、人の生き方について総合的な学習の時間に取り組んでいる。そのため、第2学年で仕事や生き方に繋がる話を聞くことを、第5学年への繋がりも意識して進めていきたい。

生活科 学習指導案

指導者 西倉 菜穂

- 1 日時 令和6年 11月 14日(木) 第5校時
2 学年 第2学年2組 (27名)
3 単元名 「 えがおのひみつたんけんたい 」 内容(3) (8)
4 単元について

単元の目標

地域の多様な場所や人々に関わる活動や、学んだことを身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりを見付け、地域のよさや働きを捉えたり、相手のことを想像して伝えたいことや伝え方を選んだりするとともに、身近な人々と関わるよさや楽しさがわかり、地域に親しみや愛着をもち進んで触れ合ったり、安全に生活したりすることができるようにする。

目指す子供の姿

- 身近な人々と関わるよさや楽しさ、適切な接し方がわかる。
- 地域の人々と進んで関わることで、地域のよさや働きを捉えたり、相手に応じて伝え方を選んだりする。
- 地域に親しみや愛着をもち、進んで触れ合ったり、安全に生活したりしようとする。

現在の子供の姿

本学級の児童は、7月に「まちが大すきたんけんたい」の学習で伴南の町を歩き、どんな施設や店があるのかを知った。自分たちが住んでいる町ではあるが、あまり詳しくは知らない児童が多かった。本単元の導入で児童アンケートを行ったところ「『なぜ』『どうなっているの』などの疑問をもつようになってきています。」「話し合いで、何かを進めることが楽しいです。」「友達の考えを聞いたりよさを見付けたりすることができます。」「などで、どの項目においても肯定的評価をした児童が多く、生活科の学習に対する意欲は高かった。疑問をもとに、話し合うことのよさを感じている児童が多いことが分かった。しかし、自分の考えをもつことが難しい児童が1割程度おり、自分の考えや思いを書いて表現することはできるが、話し合い活動や全体交流の場において、友達に伝えることが難しい児童もいる。また、受動的な児童が多く、言われたことは前向きに取り組むことができるが、自分から進んでやってみたいという思いをもつことが難しい児童がいる。

単元の価値

地域の多様な場所や人々に関わる活動を調べ、伝え合う活動を行うことで、伴南の町にある施設や店のよさや働き、地域の人々と自分たちの生活との関わりを知ることができる。そして、伝えたいことや伝え方を選んで表現することで、身近な人々と関わることのよさや楽しさに気付くことができる単元である。

また、今まで、何気なく見かけたり、買い物をしたりしていた施設や店で見学やインタビュー、体験活動をする学習を通して、人との関わりを増やし、その仕事に携わる人々の思いや願いに気付くことができる。

このような活動を通して、地域に親しみや愛着をもち、進んで触れ合い交流することで、地域との関わりを豊かなものにしていけることができ、適切に接したり安全に生活したりすることができるようになると思える。

働きかけ・環境設定

今回の「えがおのひみつたんけんたい」では、伴南の町にある施設や店で「えがおのひみつ」を見付ける活動を中心に単元を展開していく。単元の導入では、「まちが大すきたんけんたい」で見付けた「もっと知りたいこと」「やってみたいこと」を思い出す活動から、児童が探検する場所を決めていく。

見学やインタビューに行く前には、見学場所についてしっかり想像できるようにし、聞きたいことや知りたいことを考えることで、探検への意欲を高めていきたい。その際、自分の考えや友達の考えを整理していくために、付箋や思考ツールを活用して話し合い活動を進めていく。聞きたいことや知りたいことが思いつかない児童への手立てとして、施設や店の内部が分かるような写真を用意したり、買い物に行ったときに見たものや聞こえてきたことなど、これまでの生活経験を思い出したりできるようにする。

見学・インタビュー終了後は、この探検でわかったことやもっと知りたいこと、やってみたいことはないかを話し合い、2サイクル目の体験活動につなげていく。体験活動に行く前にも、施設や店の人がどのようなことに気を付けて働いているのかをしっかりと想像していくことで、実際に活動した際の様々な気づきにつなげていきたい。

一連の体験活動終了後には、自分たちが行ってきた町探検には、様々な人が関わってくれたことで実現できたということに気づき、自分たちがお世話になった施設や店の人たちを、笑顔にすることができないかを考えたい。自分たちに関わってくれた人たちが喜んでくれると、自分たちもうれしいということを実感できるように活動を進めていきたい。

学習全体を通して、グループ交流や活動を積極的に取り入れることで、思いを伝えることが難しい児童も安心して表現できるようにしていく。一人では気付かなかったことに気付けるように、グループ交流を充実させることにより、もっと知りたい、やってみたいという思いや願いをもつことができるようにしていきたい。探検の計画や振り返りをする中で、話し合い活動を多く取り入れていき、友達と話し合うことのよさを実感できるようにする。

つながる学び

【国語科】「こんなもの、見つけたよ」で学習したことを生かし、見つけたものや気づいたことをメモすることができるようにしたい。

【国語科】「あったらいいな、こんなもの」で学習したことを生かし、相手の考えをくわしく聞くために、大事なことは何かを考えて、質問することができるようにしたい。

【生活科】「まちが大すきたんけんたい」で学習したことを生かし、探検で知りたいことや見つけたことを付箋に書き、友達に伝えることができるようにしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
○ 地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わるよさや楽しさ、適切な接し方がわかっている。	○ 地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりや地域のよさや働きを捉え、相手に応じて伝え方を選んでいる。	○ 地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域に親しみや愛着をもち、進んで触れ合い交流することや、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。
① 探検の計画を立てる話し合いを通して、働く人と関わる時の適切な接し方に気づき、インタビューや活動の仕方が分かっている。	① これまでの町探検を通して、より関わりを深めたいという思いを持ち、何ができるか話し合っている。	① 働く人々に関心や期待をもち、進んで探検に行こうとしている。
② これまで目に見えなかった仕事や、仕事をしている人たちの工夫や努力、思いに気付いている。	② 町探検に出掛けて、聞いたり見たり、やってみたりしたいことを考え、その場に合った行動を予想しながら、計画を立てている。	② 町探検に出掛けて、インタビューや体験活動などに喜んで取り組もうとしている。
③ 自分の気持ちが相手に伝わることのよさに気付いている。	③ 自分の思いと友達の発表を比較しながら聞き、自分が学んだことをまとめたり、友達に伝えたりしている。	③ 町やお世話になった人のことを伝えるための準備を、友達と協力してしようとしている。
④ 地域の人々と関わる楽しさや喜びに気付くとともに、地域への親しみや愛着が増し、人々と適切に交流できるようになった自分たちの成長に気付いている。	④ 伝える相手に応じて、学んだことや伝えたい内容の表現方法を工夫して考えている。	④ 地域の人々や町に親しみや愛着をもち、地域や身近な人々と関わることのよさを大切にしようとしている。

6 指導と評価の計画（全36時間）

小単元名	主な活動内容	知	思	態	評価方法
1～5 町探検の計画を立てよう	前回の町探検を思い出しながら話し合い、もっと知りたい場所やお店について話し合う。		①		行動 発言
	町探検する場所を決めたり、町探検の目的を確認したりする。	①			行動 発言 ワークシート

	探検場所について自分が「知っていること」を考える。働く人の様子を予想したり、想像したりしながら「知りたいこと」を考える。	②	行動 発言 ワークシート
	グループごとに「知りたいこと」の意見交流を行い、店や施設で「聞いてみたいこと」「見てみたいこと」などを話し合う。	③	行動 発言
	グループで出た意見を整理し、役割分担をする。	②	行動 発言
6～12 町探検にでかけよう	探検のときに気をつけることを考えたり、インタビューの練習をしたりする。	①	行動 発言 ワークシート
	全体で町探検の流れを確認したり、グループで時間や道順の確認をしたりする。	②	行動 発言 ワークシート
	町探検に出かけて働く人の様子を見たり、工夫や努力を感じたりするようにする。	①	行動 発言 ワークシート
			
	見学の振り返りをして見付けたことを紹介し合ったり、お礼のお手紙を書いたりする。	④	行動 発言 ワークシート
	お礼の手紙を届ける。	③	行動
13～21 体験してみよう	見学した店や施設で、やってみたいことを考える。	①	行動 発言 ワークシート
	体験のときに気を付けることを考えたり、練習をしたりする。	②	行動 発言 ワークシート

	体験活動をする。   				②	行動 発言
	体験活動の振り返りをする。	②				行動 発言 ワークシート
	探検や体験活動をして分かったことや思ったことをまとめる。		④			行動 発言 ワークシート
	グループで気づきを交流し、働く人の「えがおのひみつ」について話し合い、紹介カードにまとめる。			③		行動 発言 紹介カード
	働く人の「えがおのひみつ」を全体で発表し合い、交流する。				④	行動 発言 紹介カード
22～28 お世話になった人をえがおにしよう	探検や体験活動でお世話になった人を、もっとえがおにする方法を個人で考える。				④	行動 発言 付箋 ワークシート

22～28 お世話になった人をえがおにしよう	グループでお世話になった人をもっとえがおにする方法を話し合い、全体で紹介しあう。(本時)	④	④	行動 発言 ワークシート
	グループでアドバイスをしあったりして、考えた方法の準備をする。	④	④	行動 発言 作成物
	お世話になった人をもっとえがおにする。 		④	行動 発言
	これまでの学習を振り返り、自分自身の成長への気づきやまちへの思いを深める。	④	④	振り返りカード
29～34 地域かるたを作ろう	地域かるたにする事柄を決めて、文と絵をかく。	②	④	かるた
35～36 地域かるたで遊ぼう	地域かるたで遊ぶ。	④		行動 発言



7 本時の目標

話し合いを通して、探検でお世話になった人が笑顔になるために何かできることはないかを考えることができる。【 思・判・表④ 】

8 本時の学習展開

学習活動	働きかけ（目指す子供の姿のために）
1 前時までの活動を振り返る。 幼稚園の人たちに歌を届けたと思ったよ。 お店のポスターをつくりたいと考えたよ。 お店の人に感謝状を渡したいな。	○ 前時に個人で考えたことを思い出すことができるように、付箋に書いたことを見直す。
2 めあてを確認する。 お世話になった人たちをもっとえがおにする方ほうを考えよう。	
3 個人で付箋に書いたことをグループで交流し、自分たちのグループはどの方法にするか考え、ホワイトボードに書く。 インタビューや体験をしてわかった、お店のすてきなところをポスターにして、お店の人に渡したいな。お店の人が喜んでくれると思うから。 お店のよいところを紹介できるようなものが作りたい。お店に来た人たちにも知ってほしいから。 ありがたい気持ちを込めて、お手紙が書きたい。自分の気持ちが伝わるから。	○ よりよい方法を見付けるために、付箋に書いたことを見直し、たくさんの意見を出すことができるようにする。 ○ どうしてその方法がよいと思ったのか、理由も一緒に伝えるよう促す。
4 グループで考えたことを全体で交流する。 楽しい歌を聞くと、笑顔になれたよ。施設の人にも笑顔になってほしいから楽しい歌を歌いたいな。 おすすめの商品がかいてあるポスターを見て、お母さんがその商品を買っていたことがあるよ。他のお客さんにも知ってもらって買ってほしいから、絵をかいておすすめの商品を紹介するポスターを作りたい。 友達にお手紙をもらってとてもうれしかったよ。忙しい中、色々なことを教えてくれたから、ありがたい気持ちをお手紙に書いて渡して笑顔にしたいな。	○ 他のグループの意見を聞くことで、様々な方法があることに気付けるようにする。

5 全体交流をもとに、もう一度グループでどのような方法がよいかを考え、決定する。 6 本時の学習を振り返る。	○ 一回目のグループ交流の際に決めた方法と変わってもよいことを伝える。 ○ なぜその方法にしたのか理由をしっかりと考えさせる。
7 次時の活動を考える。	○ 本時で話し合ったことをもとに、次時では、どのようなものを作るか詳しく考えていくことを伝える。

〇〇で体験をさせてもらって、お店の人の工夫やがんばっていることがわかったので、それを他のお客さんにも知ってもらえるようにポスターを作りたいです。次の時間はどんなポスターにするかくわしく考えていきたいです。

8-1 板書計画

えがおのひみつたんけんたい

◎お世話になった人たちをもっとえがおにする方法を考えよう。

えがおにする方ほう

・お手紙 ・ポスター ・チラシ ・うた ・かんしゃじょう	・合奏 ・演奏 ・紙しばい ・おどり
--	---

笑顔になれる

みんなに伝わる

もらとうれしい

9 本時の評価規準と目指す子供の姿

本時の評価規準	目指す子供の姿
【思考・判断・表現④】 これまでの町探検を通して、より関わりを深めたいという思いを持ち、伝える相手に応じて、学んだことや伝えたい内容の表現方法を工夫して考えている。 (発言・行動・付箋・ワークシート)	○ 話し合い活動を通して、体験でお世話になった人たちが笑顔になるために何かできることはないかを考え、意見交流をすることができる。 ・ 〇〇で体験をさせてもらって、お店の人の工夫やがんばっていることがわかったので、それを他のお客さんにも知ってもらえるようにポスターを作りたいです。次の時間はどんなポスターにするかくわしく考えていきたいです。

10 本時の見どころ

お世話になった人たちに笑顔になってもらうためにできることを考え、自分の思いをもって意見を出し合い、付箋や思考ツールを使って話し合っている様子。